

広瀬浩二郎さん待望の新刊 7月17日発売！

世界はさわらないとわからない

——「ユニバーサル・ミュージアム」とは何か

平凡社新書 定価 1,034 円（本体 940 円＋税）

人間にも「触角」が必要だ！
さわれない時代にこそ問う、
「さわること」の無限の可能性。

「ユニバーサル・ミュージアム＝誰もが楽しめる博物館」を掲げ、
展覧会やワークショップの開催に取り組んできた盲目の人類学者が
2021 年、満を持して企画した大規模展覧会

「ユニバーサル・ミュージアム——さわる！“触”の大博覧会」。
しかし想定外の新型コロナ禍が展覧会を直撃する——。
その前後、触常者として生きる著者は何を考え、何を語ったのか。

ユニバーサル・ミュージアムは未来の文明をひらく！



本書は、コロナ禍の中で迷い悩みながら「さわる」ことの意味を追求した全盲の文化人類学者の「生の証」である。それと同時に、新型コロナウイルスの登場によって到来した「さわれない時代」、目に見えないウイルスを過度に恐れる「さわらない人々」に対する触常者からのメッセージ集ということもできる。——「はじめに」より

著者 広瀬浩二郎（ひろせ・こうじろう）

1967 年、東京都生まれ。国立民族学博物館准教授。自称「座頭市流フィールドワーカー」「琵琶を持たない琵琶法師」。13 歳の時に失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000 年、同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。ユニバーサル・ミュージアムの実践的研究に取り組み、“触”をテーマとするイベントを全国で実施。2021 年、国立民族学博物館において特別展「ユニバーサル・ミュージアム——さわる！“触”の大博覧会」を担当。『目に見えない世界を歩く』（平凡社新書）、『それでも僕たちは「濃厚接触」を続ける！』（小書き社）など著書多数。

全国各書店・ネット書店でお求めください